

⑪ 特許出願公開

⑤Int.Cl.⁴ 識別記号 庁内整理番号 ④公開 昭和61年(1986)11月27日
B 41 J 3/04 1 0 3 7513-2C

④発明の名称 インクジェットプリント用ヘッド

②出 願 昭60(1985)5月23日

⑦出 願 人 オリンパス光学工業株式会社
東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号

⑦代理人 弁理士 藤川 七郎 外1名

明 相 登

1. 発明の名称

インクジェットプリント用ヘッド

2. 特許請求の範囲

複数個の発熱用抵抗体を有する基板と、この基板上に配設され、上記発熱用抵抗体に対応する位置に穿設されていてインク小滴を吐出する複数個のオリフィスを有するオリフィス板とを具備し、上記基板とオリフィス板間にインクを収容するインクジェットプリント用ヘッドにおいて、

上記基板とオリフィス板の距離を、10～40 μm としたことを特徴とするインクジェットプリント用ヘッド。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、インクジェットプリント用ヘッド、
しくはインクを小滴として飛翔させて記録紙に
付着させるインクジェット方式のヘッドに関する
ものである。

〔従来の技術〕

インクジェット方式の記録法は、周知のようにインクの微小な液滴を飛翔させて、これを記録紙等に付着させ画像の記録を行なうものである。

このインクジェット方式の記録法には、従来、連続的に発生する液滴を電界等により制御して記録を行なうコンティニユアス方式と記録が必要となるにのみオリフィスよりインクの液滴を吐出させるオンデマンド方式とがある。オンデマンド方式にはピエゾ振動素子の機械的振動を用いて液滴を発生させる手段と、発熱素子の熱により液滴を発生させる手段とがあるが、発熱素子を用いる手段の方が記録速度を上げるために重要なヘッドのマルチ化が容易である等の有利な点が多い。

この発熱素子を用いるインクジェット方式の記録手段は、特開昭54-59936号公報に記録法およびその装置として開示されている。即ち、インク室中に設けられた発熱用抵抗体に記録信号としてパルスを加加すると発熱によりインクが気化してバブルが発生し、そのバブルの圧力によってインクをオリフィスより吐出させて記録紙等に

付着させ記録を行なうようにしたものである。ところが、このような記録手段においては隣接するヘッドに形成されたバブルの圧力が他のオリフィスに及んで記録信号が入力されていない発熱体素子に対応するオリフィスからもインクの吐出が起るという不具合があり、これを防止するために、実開昭59-174245号公報および特開昭59-207261号公報に示されるプリントヘッドのように、各オリフィス間に障壁を設けて圧力室を形成する技術手段が提案されている。

〔発明が解決しようとする問題点〕

従来の各オリフィス間に障壁を設けて圧力室を形成する技術手段では、ヘッドの形状が大変複雑化するので、ヘッドを製作する際には圧力室のエッチング基板に対しての接合等に、非常に高度の微細加工技術を必要とされる。従って製作コストが高くつくという欠点を伴う。本発明はこのように点に着目してなされたものであって、構造が簡単で製造が容易なインクジェットプリント用ヘッドを提供することを目的とする。

- 3 -

フィス4から吐出される。パルス電流の印加が除去されると抵抗体2の温度は下がり、第3図に示すようにバブル6は消去する。バブルが消失した抵抗体2上にインクが再び供給されるためには基板1とオリフィス板3との間の空隙を通じて外部からインク室5内にインクを流し込む必要がある。この場合、実験により基板1とオリフィス板3とのギャップが10 μ m以下であるとインクの流入速度が遅く連続してインクを飛翔させることが困難となり、また逆に基板1とオリフィス板3とのギャップが40 μ m以上になると、バブルの圧力が隣接するオリフィスに及び第4図に示す如く、パルス電流の印加されていない抵抗体2に対応するオリフィス4からもインクの吐出が起り不必要な記録が行なわれることが判明した。従って、基板1とオリフィス板3のギャップを10 \sim 40 μ mとすれば、ヘッドとして充分な機能を有することになる。

本発明は上記の実験結果に基づいて基板1とオリフィス板3との離間距離を、10 \sim 40 μ mの

- 5 -

〔問題点を解決するための手段および作用〕

このプリント用ヘッドでは、各オリフィス間に障壁などを設けることなく、複数個の発熱用抵抗体を有する基板と、上記発熱用抵抗体に対応する位置にオリフィスの穿設されたオリフィス板との対向配置距離を、10 \sim 40 μ mとしたものである。

〔実施例〕

先づ、本発明の実施例を説明するに先立ち、本発明のインクジェットプリント用ヘッドの基本的構成とその作用について説明しておく、第1図に示す如く、基板1上にオリフィス板3を接合しインク室5を形成するのであるが、オリフィス板3の形状により発熱用抵抗体2とこれに対応する位置に穿設されたオリフィス4との間のギャップが規制される。そして、抵抗体2にパルス電流を印加してやると抵抗体2は発熱し、これによってインクが気化し、第2図に示すようにバブル6が形成される。そしてこのバブル6の圧力によってインク室5内のインクがインク滴7としてオリ

- 4 -

間に規制するようにしたものである。

以下、本発明の具体的な実施例を図面によって詳細に説明する。第5図(A)(B)は本発明の第1実施例を示すプリント用ヘッドであって、パルス電流を印加することにより発熱する抵抗体2が基板1上に複数個、等間隔に設けられている。この基板1と一定距離の空間を保ちインク室5を形成するようにオリフィス板3がその外周縁部を気密および水密的に基板1上に接合されている。このオリフィス板3には上記各抵抗体2に対応して、直径20 \sim 100 μ mのオリフィス4が穿設されている。従って、抵抗体2にパルス電流を印加すると発生する熱によりインクが気化し、バブルが発生し、このバブルの圧力によりインク室5内のインクがオリフィス4より小滴となって飛翔し記録を行なう。この記録によって消費されたインクは、基板1に穿設されたインク供給口8を通じてインク室5内に補充される。

また、第5図(A)(B)は本発明の第2実施例を示すプリント用ヘッドである。この第2実施

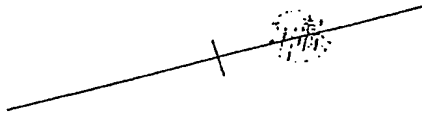
- 6 -

例において上記第1実施例と相違する点は発熱用抵抗体2に対応して多数のオリフィス4が穿設されていることである。その他の構成は上記第5図(A)(B)に示した第1実施例と全く同様に構成されている。

次に上記基板1とオリフィス板4の間隔が記録の速度、印字の雲等へ、どのような影響を与えるかを検討するために、その間隔を0~100 μ mまで変化させると共に、印加するパルスの間隔を30~1 msecまで変化させたときの記録の安定性および隣接するオリフィスへの影響を実験した結果を示す。表1は上記第1実施例の結果であり、表2は上記第2実施例の結果である。

なお、ヘッドに印加した電圧は3.5 V、パルス幅56 n secである。

以下余白



- 7 -

表 2

オリフィス板 パルス 間隔	0 μ m	10 μ m	20 μ m	30 μ m	50 μ m	75 μ m	100 μ m
30 msec	○	○	○	○	○	○	○
10 msec	△	○	○	○	○	○	○
5 msec	×	○	○	○	○	○	○
3 msec	×	○	○	○	○	○	○
2 msec	×	○	○	○	○	○	○
1 msec	×	○	○	○	○	○	○

上段 記録の安定性
下段 オリフィス間の干渉

記録の安定性 ○……連続して記録が可能
△……一部記録が不完全な部分がある
×……まったく記録しない

オリフィス間の干渉

○……隣接するドットに対応するオリフィスからのインクの飛翔がない
×……隣接するドットに対応するオリフィスからのインクの飛翔がある

- 9 -

表 1

オリフィス板 パルス 間隔	0 μ m	10 μ m	20 μ m	30 μ m	50 μ m	75 μ m	100 μ m
30 msec	○	○	○	○	○	○	○
10 msec	△	○	○	○	○	○	○
5 msec	△	○	○	○	○	○	○
3 msec	×	○	○	○	○	○	○
2 msec	×	○	○	○	○	○	○
1 msec	×	○	○	○	○	○	○

上段 記録の安定性
下段 オリフィス間の干渉

記録の安定性 ○……連続して記録が可能
△……一部記録が不完全な部分がある
×……まったく記録しない

オリフィス間の干渉

○……隣接オリフィスからのインクの飛翔がない
×……隣接オリフィスからのインクの飛翔がある

- 8 -

上記表1および表2に示すように、30~1 msecのパルス間隔で連続的にパルスを印加し、記録の安定性を3段階に評価した。即ち、印加したパルスに応じて連続的に記録が行なわれるものを○、一部に記録の不完全な部分が発生したものを△、インクが飛翔せず、全く記録が行なわれないものを×とした。オリフィス板3と基板1の距離が10 μ m以上であれば、記録の安定性については問題はないが、0 μ mではパルス間隔を縮めるに従って印字の安定性が悪くなる。これはオリフィス板3と基板1との間から供給されるインクが間隔が狭くなると流れにくくなり記録速度に追いつかなくなるためである。

一方、隣接オリフィスへの飛翔は一つおきのヘッドにパルスを印加し、パルスの印加されていない抵抗体に対応するオリフィスからのインクの飛翔があるか、ないかを観察した。そして、隣接したオリフィスからのインクの飛翔のないものを○、飛翔のあるものを×とした。その結果、50 μ m以上で隣接するオリフィスへの干渉が見られ、特

- 10 -

- 345 -

にパルス間隔の短い範囲で多く発生した。これは基板とオリフィス板との間隔を広げるに従ってバブルの圧力が横方向に広がり隣接するヘッドからのインクの飛翔が起るものと考えらる。

従って、本発明のヘッドのように隙壁を設けずに、圧力室を形成しないようにするものでは、隣設するオリフィスへの圧力の漏れによる不必要なインクの飛翔を防止するためには基板とオリフィス板との距離を厳密に10～40μmに規制する必要がある。

〔発明の効果〕

以上述べたように、本発明によれば各オリフィス間の隙壁や隔壁を設ける必要がないので構成が極めて簡単となり、高速の連続印字が可能で、隣設する抵抗体の干渉による不必要な記録の発生しない優れた記録特性をもつインクジェットプリント用ヘッドを提供することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の適用されるインクジェットプリント用ヘッドの基本構成を示す断面図、

第2、3図は、上記第1図のヘッドのインクジェット作用をそれぞれ示す要部断面図、

第4図は、バブルの各オリフィスへの干渉作用を示す断面図、

第5図(A)(B)は、本発明の第1実施例を示すプリント用ヘッドの平面図および断面図、

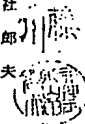
第6図(A)(B)は、本発明の第2実施例を示すプリント用ヘッドの平面図および断面図である。

- 1 ……基板
- 2 ……発熱用抵抗体
- 3 ……オリフィス板
- 4 ……オリフィス
- 5 ……インク室

特許出願人 オリンパス光学工業株式会社

代理人 藤 川 七 郎

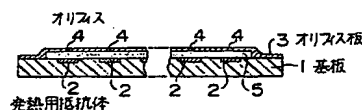
“ 小 山 田 光 夫



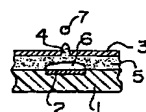
— 1 1 —

— 1 2 —

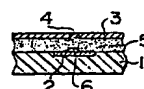
第 1 図



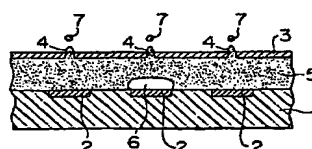
第 2 図



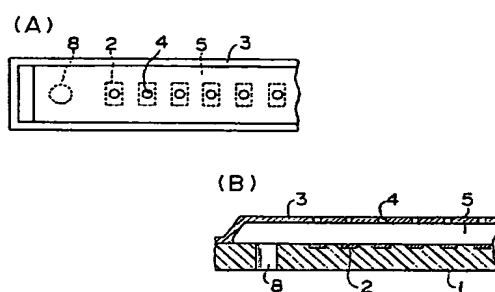
第 3 図



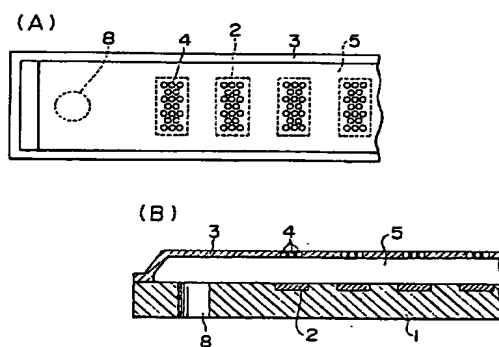
第 4 図



第 5 図



第 6 図



THIS PAGE BLANK (USPTO)